



第24号
平成29年6月16日
発行
熊本市北区高平
2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義紹

浄国寺 施餓鬼法要(檀信徒盆供養)

開催案内

浄国寺夏季施餓鬼法要

日時 平成二十九年七月三日(月)

午前十一時より

浄国寺檀信徒お盆先祖供養

法話 宮崎県延岡市 地福寺 福住職

青柳 二夫 老師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい。

例年通り今年も右記の要領でお盆の供養として、夏季施餓鬼会の法要を修行致します。ご参詣戴いた方は、ご存じと思いますが、曹洞宗の法要は多

くの僧侶の参加協力を得て務めます。例年は、七月二日から十二日まで毎日市内の曹洞宗寺院で法要が行われますが、昨年四月の熊本地震の復旧が

いただき、当山の修復は、平成二十八年末までに完了できました。しかし、石屋さんの関係で、どうにか終わりましたが、墓

終わっていない寺院もあり、今回は三ヶ寺法要が出来ない状態です。寺院の工事は、宮大工の技術者でなければ出来ない部分も多く、技術者も不足しています。曹洞宗の寺院は、檀家の方へ寄付を割り当てる事に抵抗がある僧侶も多く、余程の事態でないと寄付をお願いする事は有りません。今回の地震では檀家の方にも被害が多く、寄付をお願いするわけにもいかない、しかし、修復の費用はかかるという状態です。修復が進まない寺院もあります。有難い事に浄国寺は、県外の宮大工の方に動いて

地の復旧はまだ残っています。
仏教と資本主義社会の関係と亦々遷
何やら小難しいタイトルになってしまいました。一旦僧侶になった後、数年、熊本大学の法学部で、法社会学の教授につき勉強していたことがあります。そこでM. ウェーバーの宗教社会学の本に触れていました。書かれていた内容は、「キリスト教のプロテスタントの成立が欧米社会の資本主義の確立の後押しをした」という理論でした。難しいながらも、自分なりに理解しようと思いがきをしていました(今も理解できていませんか)。
お布施と対価報酬
お布施と言えば、御寺さんに支払うお金の事。これが、現在、皆さんが考えているものだと思います。人によっては「お布施」でなく、「お経料」と書き添えられる方もいらっしゃると思います。「それをしてもらうには、いくら

支払えばよいのですか?」「金額を教えてください」と尋ねられる方もいらっしゃいます。「お気持ちでと言われても相場が分からないので、金額を提示してください」と怒る方もいらっしゃいます。私が金額を決めないのは決して意地悪ではありません。私は、お坊さんの仕事を決してサービスマンと思いたくないのです。供養をする、お経を読む、この行為に対して対価としてお金を頂けば、これは、儀式執行と言うサービスマンになりかねません。ここで、一つ仏教用語を覚えておいて下さい。「布施」とは仏教徒の一つの修行であり、心構えなのです。人は一人で生きて存在している訳でなく、様々な因と縁によって今この時にここに存在しているのです。だから、自分のできる限りのことを周りの人にさせていた



だくーこれが布施行です。自分の出来ること、それが財(金銭等)であれ法(仏の智慧)であれ、出来ることを見返りや算盤勘定抜きに実践することです。仏様や仏教、生きている他人、そして自分を誕生させてくれた故人のために自分の持っているものや、出来ることを施すーこれが布施行の考え方です。そこには、計算や差し出した財や法への見返りに関する損得勘定⇨対価報酬という考えが入り込む余地はないのです。

農耕社会と村落共同体

農村だけに限らず、日本では、様々な共同体が成立していました。特に農作業では、自分だけ得しようと考えて動く協働作業が成立しません。サラリーマンも同様で、同じ仕事を行うチームでは、チームの業績を上げるためには自分だけ良い目に合おうとしていては、業績が上がりません。しかし、現代では個人消費の伸びが価値の中心になってきました。時間単位の労働を差し出し、見返りとして金銭的報酬を得る。そこで得た金銭を消費すること、が人の価値に繋がるような社会になってきました。

コスパの幻想

そこでは最低の労働で最大の利潤を上げることが、その人の能力評価になります。いわゆるコスパ(コスト・パフォーマンス)意識です。共同体で一緒に汗を流してみんなで頑張るといふ姿は過去の幻想になったのかも知れません。利潤追求は、資本主義社会では当然のことかも知れませんが、しかし、その事によって、他人を出し抜いても自分の利益を優先する⇨共に過ごす人間同士のお互いの喜ぶ姿を自分の楽しみに繋げることができないギスギスした社会も進行してきました。しかし気づいた時には、その富は一極集中して、回ってくるのはおこぼれだけという歪な社会になった現代こそ、仏の智慧(パーニヤ⇨般若)を生かした生活が必要になると思います。

四枚の般若

一、自分の持っている能力や財物をみんなのために使う。二、他者には笑顔で接し、優しい言葉を掛ける。三、見返りを期待しないで他人に尽くす。四、自分と他人を分けて考えたり、他人を自分の利益を分捕る存在と考えず共に頑張る。こ



れが、修証義の第四章に書いてある四枚の般若です。仏教用語では四摂法と言います。最小限の努力で、最大限の利益を得るといふ現代のコスパ社会では、勝てば楽しくなりませんが、「自己責任」という美名の下、飢える自由も苦しむ自由も自分の責任として押しつけられます。それって楽しいですか？せっかく、お寺に集う縁を頂いてます。たまには、仏教の智慧に触れ、実践してみましようよ。

初盆のお知らせ

毎年、施餓鬼の案内寺報にも書いていますが、浄国寺ではお盆に回向に回るのは初盆のお宅だけにしています(私の健康上及び幼稚園の仕事の関係の理由)。申し訳ありません。近年、初盆も ある程度の数になってきました。特に初盆の場合、各家毎の回向の時間も必要になります。三日間で回るのも、順路を考えるのが大変な状況です。現在

順路の日程作成及び調整作業中です。電話等で七月か八月どちらを希望されるか尋ねる場合もあります。七月初めまでには、連絡の葉書を出す予定にしています。尚、自宅が都合悪く、寺に来て供養をしたい場合は別途にお電話を下さい。、宜しくお願い致します。

「いま、心にZEN」

恒例の講演会と音楽会、今年も開催します。日時は十一月四日(土)の夕方です。詳細は後日案内しますが、講演は「椅子に腰掛けたままで出来るいす坐禅の実践」を行う予定です。近年、瞑想やマインドフルネスという形で坐禅が注目されています。坐禅は語るものでも、学ぶものでもなく、実行即ちやるものです。一度、体験してみませんか？音楽会は昨年にも演奏してくれました。ベース



の鈴木良雄氏率いるベテランのグループ(キャリアも一流)「ベース・トーク」の皆さんです。今年で四回目になります。楽しく、ホッとできる音楽に身を委ねてみて下さい。

娑婆は娑婆

坊主は政治に関わってはならないと言っているのは、お釈迦様の時代からの鉄則だ。関わる気は無いが、今の政治の世界を見ると何やら臭い、希望の持てない社会になりそう。少子化に歯止めが掛からないのも当然だろう。せめて、きちんとした大人⇨生きている事が嬉しいと思いつつ社会生活が出来る人間⇨の基礎作りが出来たら良いと思ひ幼稚園を運営している。大人(親)のニーズに応えれば票に結びつくと考えたのか、制度をいじくり認定こども園制度が動き出した。未来への投資として子どもに金を掛けてくれるなら良い。日本は教育に国が金を出さない点では世界でも後進国だ。少しでも子どもの環境を良くしようとする新制度に乗ったが、あまりに近視眼的、場当たり的な制度で、あきれている。大人の都合より子どもの育ちをもう少し考えてくれまいか？

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて
(一炷(約四十分)坐禅をして、坐禅に関する著述の解説(約二十分) 会費・会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい)